

社員の健康が生産性を向上し、 経営に活力をもたらす

社員の健康を企業が成長する貴重な経営資源と捉えれば、それは戦略的な投資を行なう、前向きな経営手法に変わるのではない。人手不足が叫ばれるなか、健康経営で生産性の向上に挑む企業を取材した。

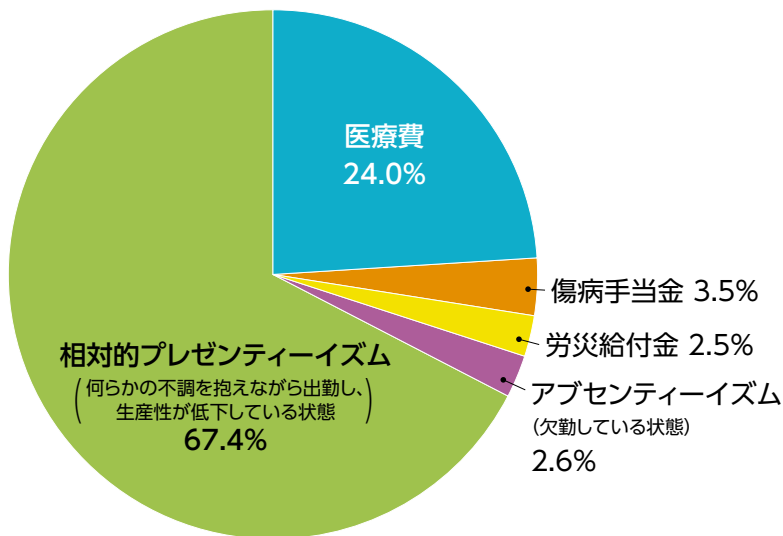
取材・文 米田真理子

社員の健康が生産性を向上し、 経営に活力をもたらす

東京大学政策ビジョン研究センター
尾形裕也おがたひろや

企業が負担する健康関連のコストのうち、七〇八割は生産性の低下によるものである——つまり、従業員が欠勤や休職には至らず出勤していても、心身が不調であれば健康時に比べて生産性が低下し、多くの損失が発生しているのだ。この衝撃的なデータは、二〇一四(平成26)〜一五年度にかけて行なわれた国内企業等数社に対する多角的な調査から得られた(図表1)。

図表1 不調を抱えて働く人に掛かるコストが全体の約7割



調査内容 健康保険組合をもっている大企業を対象に、企業側が調査したプレゼンティーズムとアブゼンティーズムに関するデータ、健康組合の医療費や健診データをもとに、健康関連のコストを可視化した